

2025

久野営農経済センターだより



<注意>「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布が可能。（前日は24時間前）
「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認する。

△店舗により農薬在庫状況が異なるので、農薬購入の際は事前に在庫確認をすると円滑に購入ができます。△

——【温州みかん】＊下線が引いてあるものは重要防除なので必ず防除を行う。——

この時期の病害虫防除は、収穫時の外観・品質へ大きく影響するので必ず実施する。

病害虫防除 8月下旬～9月上旬

○黒点病 ペンコゼブ水和剤またはジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ
収穫30日前 4回 ＊極早生に散布する際は、収穫日に気をつける。
○ミカンハダニ ダブルフェースフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 1回
ミカンサビダニ 又は、ダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 1回
○チャノホコリダニ スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回
ヤノネカイガラムシ

9月中旬～10月下旬

早生品種を中心にカメムシの被害が発生するのでこの品種がある際は、園地を見回り、防除を行う。

○カメムシ類 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50ml/100ℓ 収穫前日 3回

又はロディー乳剤（劇）2,000倍 50ml/100ℓ 収穫7日前 4回

スタークル顆粒水溶剤は3回使用できるが、大津四号、青島温州にも使用する場面も想定し散布を工夫する。また、アルバリソ顆粒水溶剤はスタークルと同じ剤のため、スタークルを3回散布した際は使用できない。

——【中晩柑】——

病害虫防除 8月下旬～9月上旬 基本防除はみかんの項参照

中晩柑の防除における農薬の使用日数には十分に注意する。

例）ジマンダイセン水和剤 収穫90日前 12月上旬収穫のものには散布できない。

ペンコゼブ水和剤 収穫90日前 12月上旬収穫のものには散布できない。

○かいよう病（単用散布） コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ（クレフノン200倍を加用）

施肥 中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにする。

初秋肥 9月中旬 特選みかん配合655 140kg/10a（後期肥大促進・樹勢維持のため）

＊10月下旬にもう1度施肥を行う。 特選みかん配合655 100kg/10a

——【レモン】＊下線が引いてあるものは重要防除なので必ず防除を行う。——

病害虫防除 8月下旬～9月上旬

○ミカンハダニ ダブルフェースフロアブル 2,000倍 収穫前日 1回 50ml/水100ℓ
ミカンサビダニ 又は
チャノホコリダニ ダニゲッターフロアブル 2,000倍 収穫前日 1回 50ml/水100ℓ
○かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ（クレフノン200倍加用）
黒点病（単用散布）

施肥 中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにする。

初秋肥 9月中旬 特選みかん配合655 120kg/10a（後期肥大促進・樹勢維持のため）

＊10月下旬にもう1度施肥を行う。 特選みかん配合655 100kg/10a

——【湘南ゴールド】——

秋口の摘果は肥大促進効果が低いので、病虫害が著しい果実と極小果を中心に仕上げ摘果を行う。

裾枝・下垂枝の持ち上げ摘果で2S以下を無くす。

仕上げ摘果	9月20日	3.9cm～5.4cm	このサイズを残し、 外観を中心に仕上げ摘果
	11月20日	4.8cm～6.5cm	

仕上げ摘果・枝吊り 10月以降果実の肥大は緩慢になるので、その前に小玉果、傷果を摘果し、大きさを揃える。果実の重量で枝が折れる、裂けることがあるので、重くなる前に枝吊り、枝支えを必ず行う。

病害虫防除および施肥 中晩柑の項参照

—【う め】—

夏季剪定 9月中旬頃までに、縮間伐・立ち枝の間引きを実施する。

樹内部に光を入れ、花芽分化を促進する。また、夏季剪定の際、残す枝の葉を落とすと翌年の花芽分化に悪影響を与えるので注意する。

※灰星病発生園での剪定について：剪定枝は発生源になるので、必ず園外廃棄する。

- ・結果枝（実のなる枝）に症状がある場合は切り落とし、被害が多い場合は側枝単位で切り落とす。
- ・樹全体に症状が広がっている場合は、健全な枝（緑枝など）を残し切り落とす。

〇モモヒメヨコバイの発生が続く時は、防除を行う。

テッパン液剤2000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 2回を散布する（散布回数を注意する）

—【キウイフルーツ】*下線が引いてあるものは重要防除なので必ず防除を行う。—

病害虫防除 9月上旬

〇果実軟腐病 ベルコート水和剤 1000倍 100g/水100ℓ 収穫前日 5回

*カイガラムシ多発園では9月上旬～中旬にトランスフォームフロアブル 2000倍 50ml/水100ℓ 収穫3日前 3回

*カメムシ発生時はスタークル顆粒水溶剤 2000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 3回

施肥 9月中旬と10月中旬に分肥 キウイ配合 100kg/10a

後期肥大は、年間肥大の20%程度あり、肥料の分肥は9月中旬に60%、樹勢回復には10月中旬に40%の2回に分けて行う事で効果が上がる。

—【か き】—

枝つり 着色を良くするために、果実の重みで下がった枝を吊り上げて、光を入れるようにする。

病害虫防除 9月上旬～9月中旬

カメムシ（夜間の飛来と加害が多いため、夕方に防除する）

〇スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回

*カメムシは山林から飛来して加害するので、園の一部に加害が集中する場合がある。園内を良く見回り、加害を発見した時は防除を行う。（早生種では、加害時期と収穫時期が重なるので収穫前日数には十分に注意する。）

〇うどんこ病・炭疽病 スコア顆粒水和剤 3,000倍 33g/100ℓ 収穫前日 3回

※台風などの強風、大雨があった場合は速やかに防除する。

—【お 茶】—

施肥 秋肥 9月中旬

秋肥は、貯蔵養分として来年の一番茶に利用される。光合成が活発化する10月～11月に貯蔵養分として吸収され、越冬芽の充実度に反映し、来年の収穫量を左右する。2回に分肥し、1回目と2回目の施肥の間隔は20日程度を目安とする。

1回目 8月下旬 足柄茶配合 033 80kg/10a 2回目 9月中旬 足柄茶配合 033 80kg/10a

病害虫防除 8月中旬～9月上旬 病害虫防除の徹底をお願いします。

〇チャハマキ・チャノコカクモンハマキ

ファルコンフロアブル 4,000倍 25ml/水100ℓ 摘採7日前 2回

—【水 稲】—

水稻の生育状況

令和7年産水稻の生育状況は、草丈は平年よりやや長く、莖数は多く、葉色はやや薄い傾向で、出穂期はやや早い状況となっている。今後の気温は高い予報となっているので、水管理などで稲への負担を軽減すること。

水管理 出穂後35日(収穫7日前頃)を目安に落水を行う。(土壌条件にもよる。)

落水が早いと登熟が悪くなるので登熟不良や胴割れを防ぐために、完全落水は収穫作業に差し支えない範囲で出来るだけ遅らせる。

高温時対策 高温になると品質の低下が起こりやすくなるので対策として出穂期、登熟期の間断かん水、かけ流し、夜間入水を行う。(夜温が高い日はできる限り夜間入水して水温を下げ、呼吸による消耗を防ぐ)

収 穫 収穫適期は、穂に青籾が 15%残っている時期(はるみ・キヌヒカリ・てんこもりの場合)

平年の収穫目安 5月25日田植えの場合：はるみ・キヌヒカリ 9月14日頃 てんこもり 9月20日頃

乾 燥 収穫した籾は、ムレを防ぐため4時間以内に乾燥機に入れる。

コンバインで収穫した籾を急激に乾燥させると胴割れし易くなるので、風乾燥を4～5時間行い水分が20%前後になってから火力乾燥(40℃を越えない)し、玄米水分含量を14.5%～15%に調整する。(循環式乾燥機がある場合は、取扱い説明書に従い作業を行う。)

機械の取扱い 農作業の安全と品質の確保のため、使用前に取扱説明書を読み、性能にあわせて無理せず作業する。

神奈川県 病害虫情報・予報

神奈川県病害虫防除部が発表した病害虫情報・予報のリンクを掲載します。安全で安心な農産物が安定的に生産できるよう、県全域の病害虫の発生状況調査と病害虫情報の提供を行っています。是非ご活用ください。

二次元コード：



URL:https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2025_4_01.html

お米の出荷はJ Aへ!! ～令和7年産米の出荷をお願いいたします！

○子ども達のために！学校給食用米が不足しています！

県内全体で3,800トンが必要ですが、1,550トン以上不足しています！

○安定的な販売先確保のために

神奈川県ではJ Aに出荷することで確実に学校給食会などに販売され、出荷契約を結んでいけば出荷後すぐに概算金をお支払いできます。

○J Aに出荷し、学校給食への供給量を伸ばすことで、神奈川県産米の価格安定に繋がります！

【出荷契約された方】

出荷後、約1週間で「概算金」をお支払いします。また、契約数量に対し、**95%～120%までの範囲内で出荷されたお米には500円/1袋お支払いいたします。**(下限は小数点以下切捨て、上限は小数点以下切上げ)出来る限り、**契約数量に対し100%以上**の出荷をお願いいたします！

【出荷契約をしていない方】

春に出荷契約を結んでいない方も、出荷することができます。ただし、出荷後に「概算金」をお支払いしますが、加算金はありません。出荷にあたっては所定の手続きが必要となりますので、営農経済センターにお問合せください。

※インボイス制度の都合上「組合員」名義で出荷いただく必要がありますのでご注意ください。

お問合せは営農経済センターまで